

会報

こぶし

発行 花北地区
コミュニティ
協議会
編集 総務企画部

令和7年度地域づくり交付金事業の報告

〔花北コミュニティセンター事務局次長 佐藤加津三〕



後川ライトアップ事業

花北11地区の各自治会での標記事業は次のとおり完了しています。

▼浅沢 (補助額1,089,760円)

ゴミ集積所新設、側溝蓋整備、防災資機材購入、防犯灯交換、カーブミラー設置

▼星が丘二丁目 (補助額445,700円)

レクリエーション用具購入、公民館蛍光灯LED化、防犯灯整備、非常用発電機購入

▼四日町一丁目一区 (補助額260,000円)

防犯灯増設、自治会用プリンタ購入

▼四日町二丁目二区 (補助額66,200円)

側溝蓋整備、カーブミラー設置、歩行注意喚起マーク路上設置

▼四日町三丁目 (補助額497,970円)

公民館防犯灯設置、防犯灯新設、AEDパッド・バッテリー交換

▼自治会用パソコン・プリンタ購入、側溝蓋整備

一日市 (補助額21,000円)
公民館用給湯器購入、自治会用テナト購入、ゴミ集積所表示板設置

▼愛宕町 (補助額499,900円)

折り畳みゴミステーション購入、カーブミラー設置、掲示板設置

▼桜台 (補助額14,000円)

「学ぶ防災」研修会

▼坂本町 (補助額300,000円)

ゴミ集積所更新

▼小舟渡 (補助額489,800円)

ゴミ集積所塗装、防犯灯交換・新設

▼四自治会協働事業 (補助額424,800円)

四日町一丁目一区、四日町二丁目、一日市、小舟渡、後川さくら並木ライアントップ事業

▼補助合計額

4,650,440円

交付金事業に占める割合50・5%

各部会事業報告

◆総務企画部

部会長 菊池善明

3月の役員会議時、2025年度の部会員が半数近く変わるということを知り、ビックリしました。特に昨年度まで長らく副部会長として努めて下さった戸来昭男さんが地区の役員交代と同時にこの部会をさることになったことについては失意でした。何せ、私が部会長になり何も分からず2年間頼りきっていた方でしたので。でも嘆いてばかりでは、物事は進みません。教えていただいた事を基に部会運営を一年間行いました。

会報「こぶし」は、部会員の皆さんの協力のもと編集会議を1号発行につ

き3回、年間9回行い、「地区だより」を含めた会報42、44号を発行できました。また、今年度から始めたコミュニティ事業の行事紹介への突撃取材は、紙面の関係上1回しかできませんでしたが、来年度以降も継続的に行えればと思っています。

もう一つの大きな仕事である秋のバス研修旅行には、59名の参加者があり、正法寺を筆頭に奥州市方面に楽しく事故もなく研修できましたことにうれしく思っています。令和8年度の旅行は仙台市方面に工場見学を予定しています。詳細が決まりましたら、会報「こぶし」等で紹介をしたいと思います。

◆生活環境部会

部会長 中園教一

時が過ぎるのも早いもので、あっという間の一年でした。日頃は生活環境部会活動へのご理解、ご協力を頂き誠に有難うございます。

令和7年度も残すところ一か月余り。生活環境部会の活動を報告いたします。

- ① 花北振興センターのプランター花植え (6月)
- ② 愛宕公園グラウンド草取り清掃 (7月・9月)
- ③ 花北地区文化祭の準備・後始末支援
- ④ 愛宕公園まつりの駐車場整理・誘導

特に愛宕公園グラウンドの草取り清掃作業は降雨順延にも拘わらず地区民や桜台学童クラブを始め、100名を超す沢山の方々の協力がありました。改めて感謝申し上げます。



～みんなで協力～
文化祭作品展示準備の様子

また、初めて開催された愛宕公園まつりでは肌寒い中、駐車場の整理・誘導を行い、安全確保に努めました。

課題であるゴミの分別・不法投棄減量化など、課題解決に向け、部会員間での情報共有など、意識の向上も図られた一年でもあったと考えております。

◆教育文化部

部会長 松田廣邦

今年度の部会活動について次のとおり報告いたします。

昨年から新たに取り組みを始めた部会企画、伝統芸能継承の大切さを地域で認識し、今後の発展につなげていくことを目的として検討し、今年度は北上市の「黒沢尻歌舞伎」を上演いたしました。

同歌舞伎は、明治時代に栄えた「芸者歌舞伎」などを前身として1980年に保存会を結成し85年から年に数回公演を行っているものです。今回、同保存会のご好意により花北公演として上演することができました。総勢40名のスタッフによる迫力ある演技に会場された地域のみならず、まさに本物の舞台を肌で感じていただけたのではないのでしょうか。

二つ目は、恒例の「花北地区文化祭」です。近年は、出品数が減少していることや行事の効率的な運営の在り方、コミュニケーション協議会の基本計画の改正等から様々な協議を重ねた結果、今年度から2週に亘って行なっていたステージ発表会を一本化し、新規施策「愛宕公園まつり」との同時開催としたことで相乗効果的に来場者が増加することにつながりました。また、作品展示場所を一か所にしたことからコンパクトな展示スペースとなり来場者が効率的に鑑賞することができるようになりました。

三つ目は、「市民憲章運動推進大会」参加者は、二名でしたが、有意義な講演に耳を傾けられたものと思います。

最後は、文化講演会として企画した「新春花北寄席」。日本の伝統話芸の講談と落語、真打お二人の名調子をお聴きいただきました。講談の神田春陽さんは今回で三回目の出演でした。歯切れのよい話しぶり、講談師とは言え随所に笑いを交えての語り口は、何度聴いても素晴らしいものでした。聴衆の皆さんも大いにその話芸を楽しまれたのではないのでしょうか。

今年度においてもまた、皆さんが楽しんでいただけるものを検討してまいりますと思いますのでご要望がございましたら事務局までお知らせください。

◆保健体育部会

部会長 牛崎 弘

令和7年度の体育部行事を報告しま

す。

6月8日、ソフトバレー大会を実施しました。参加チーム7地区、80名の参加で、優勝は四日町二丁目、準優勝は、星が丘一丁目、第3位は小舟渡地区でした。試合内容は、全体的にスムーズに行われ、あまり問題なく終了しました。次の事業は、7月27日、ニュースポーツ大会です。これには10地区84名の参加でした。種目別順位として、ユニカールの部1位、愛宕町、2位、四日町一丁目一區、第3位、小舟渡地区、シヤフルボードの部、1位、星が丘一丁目、2位、小舟渡地区、3位、愛宕町、スティックボールの部、1位、愛宕町、2位、小舟渡地区、3位、星が丘一丁目、総合順位1位、愛宕町、2位、小舟渡地区、3位、星が丘一丁目、この事業は参加地区が10地区で、試合会場が狭く感じられました。世代間交流の事業とも言われ、家族で参加するチームもあり、ユニカールの試合は、重いストーンを投げるゲームでしたが、子供が投げるには重く70才以上の選手も投げるのに苦労している状況が見られました。

10月19日、ソフトボール大会は、前日までの天候が悪くて、グラウンド状況が悪く、当日の朝、体育部員が集まり、そこで中止を決定しました。ソフトボール事業は、毎年グラウンド状況により決定するのですが、その判断が難しいので、事業内容を変える必要があると考えます。11月9日、花北地区グラウンドゴルフ大会、10チーム、72名の

参加、優勝は星が丘一丁目、2位、浅沢地区、3位、四日町二丁目と小舟渡地区、この大会は愛宕公園の芝張り終了し、再度会場として、使用できなくなった。名物の山コースにて、ボールを全然止める事が出来ず、時間が掛かり、その内、天候まで崩れてしまい、2回コースを回る競技を1回にして終了しました。次回は、山コースをなくすか、山頂をスタートにして、コースを替えて、楽に廻れる様にしたいと思えます。

◆地域安全部会

部会長 松田富彦

令和7年度に地域安全部会の活動は、年3回の全体会議で事業内容について確認しながら行なっています。

6月28日に防災用携帯無線の保守点検と操作についての講習会を行ない、毎月11日9時から11地区無線機設置場所と花北振興センター間で交信訓練を実施しています。

秋の交通安全運動啓発活動として、9月27日16時30分から花巻神社鳥居前で「早めライト点灯」の啓発活動を行ないました。

花北地区文化祭作品展示会の応援として、10月10日から13日に準備・後片付け・撤去を行ないました。

花巻市ふれあい出前講座事業として、11月29日10時より救急救命セミナーを行ないました。

去年12月には、青森県東方沖で大きな地震が発生し、後発地震注意報が発表されました。また今年に入り、大雪

の影響もあって県内では交通事故が相次ぎ、全国でワーストの状況。4月からは自転車の交通反則通告制度も開始される予定となっています。自然災害などの万が一の事態に備えることの大切さや、交通安全を呼びかけることの大切さ、地域安全部会の活動の必要性を感じ、来年度も地域の安心・安全につながる活動を行なっていきたいと思っています。

地区だより

楽しかった自治会旅行会

四日町一丁目一区 吉川千秋

四日町一丁目一区自治会の主な行事としては、春の観桜会、夏のビール会、秋の敬老会、旅行会、年3回の資源回収、一斉清掃等があります。特に、2年に1回行われる旅行会。今年は10月26日に宮城県石巻周辺を見学する日帰りバス旅行が行われました。参加者は33名(子供6名含む)

最初に行ったのは、令和7年の干支巳年にちなんで金蛇水神社にて参拝をしました。本殿横にある蛇石にお財布でなでると、金運が上がると言われています。皆さんが一生懸命お参りしていました。



金蛇水神社
蛇石を撫でていました

次はうみの杜水族館です。ペンギンの散歩は見られませんが、圧巻の大水槽、イルカのショーを見る事が出来ました。子供たちは大群で泳ぐ魚、珍しい魚を見て興味津津の様子でした。



うみの杜水族館
仙台ハイ

次に、石巻市震災遺構大川小学校を見学しました。東日本大震災後15年になりますが、現場に立ちますと何であるような惨事になったのか、すぐそばには裏山があり「なぜ」と思いました。静かに手を合わせてきました。

最後の見学場所は、石ノ森萬画館。歴代の仮面ライダーがずらりと並びおやじ連中は子供時代の顔に戻り楽しんで語り合ひ、子供たちは正義の味方ヒーローを見て興奮し、時間を忘れて帰りたいようでした。楽しみの昼食は、「あれ？」と思いましたが、これも旅の思い出と思っています。楽しみの買い物は、石ノ森萬画館の近くにある「いしのまき元氣いちば」で鮮魚、野菜等を各自思い思いに買い物を楽しみました。今回は子供会からも参加頂き、幅広い年代の参加者と交流ができて楽しい時間でした。又、見学場所が豊富で時間通り進むか心配でしたが、社会部長の梅木さんが綿密に計画し現地では適切に誘導して頂き帰着時間はばっちり予定通りでした。楽しい時間を

過ごすことが出来ました。次回が楽しみです。

令和8年新年交賀会

四日町三丁目自治会 会長 熊谷勇夫

令和8年の新年交賀会は、参加者40人を迎え、和やかで華やかな雰囲気の中、盛大に開催されました。式典は開会の辞をもって始まり、参加者全員による市民憲章の唱和が行われ、会場に新年を迎えるにふさわしい引き締まった空気が漂いました。続いて主催者挨拶来賓祝辞が述べられ、新年への期待と地域発展への思いが語られました。また、二十歳対象者の紹介が行われ最後に閉会の辞が述べられ、厳粛な式典は滞りなく終了しました。

その後、いよいよ祝宴が始まり、会場は一転して和やかな雰囲気となりました。演芸では小学生による神楽が披露され、元氣いっばいで一生懸命な舞に参加者全員から大きな拍手が送られました。続く舞踊では、華やかで優雅な踊りに来場者はうっとりとお見入り、心と見入り、心を過ごしました。



懇親会
これぞ新年会



大償神楽
すばらしい舞です

た。さらに、サククス演奏では美しい音色が会場内に響き渡り、多くの参加者が聞き惚れるなど、充実した内容となりました。

祝宴の途中で中締めが行われ、その後は懇親会へと移り、参加者同士が語り合いながら親睦を深めました。予定時間を2時間超過するほど盛り上がりましたが、終始笑顔あふれる会となり、無事に新年交賀会を締めくくることができました。

愛宕町の活動

婦人部長 佐々木亜紀子

何度目かの班長が回ってきたタイミングで婦人部長を引き受け、今、一年が経とうとしています。

婦人部の活動として印象に残っているのは正月用の生け花講習会です。今年度は花北振興センターで12月26日に実施しました。土日に開催しなかったのですが、センターが翌日から年末年始休業に入ることによって平日開催となりました。講師の先生に選んでいただいた花材は、若松・黄菊・白のスプレー菊・千両・金銀の水引。毎年参加してくださる方のために前年と重ならないようにとのご配慮を有難く感じました。参加は7名。年々少なくなっているそうです。平日開催ではやむを得ぬところもあるでしょうが、そのおかげで一人ひとりの作業スペースを十分にとることができました。まず先生がお手本を活けていきます。なるほど、と思いつつ、見るは易し、行うは難し。



完成した生け花

枝の向き、幹の太さ、花の咲き具合、どれをとっても一つとして同じものはない。鉢を入れるのをじっとためらうのは自分だけで、皆さんは思い思いに完成させていきます。最後に金銀の水引で正月らしい華やかさをプラスし、大変だけれど楽しい二時間が過ぎていきました。

この一年間、婦人部長として月一回の役員会に出席し(要望を出す側)から(話し合う側)に身を置いて、自治会役員さんのご苦勞を知りました。道路標識やカーブミラーの設置。大雨による川の増水対策。老朽化したごみ集積所の撤去・新設。安全と衛生に関することは優先課題でした。そして行事やイベントの告知や報告。すぐに取り組めるものもあれば綿密な計画の必要なものもありました。また来年度は平成26年度以来の班の再編成があり、現在、17班から11班への組み替えが進行しています。

何もわからないまま目の前の仕事にあたってきましたが、楽しい一年間でした。久しぶりに地域の風を感じるこ

とができたことに感謝いたします。

暑かった夏もいつの間にか過ぎ行楽シーズン日和のこの頃です。地域の小学校は学習発表会やスポーツ大会で忙しいこの頃です。普段、留守番を職としている私たち高齢者にも楽しみを企画してくださった総務企画部の皆様に感謝いたします。

今年度の研修旅行は奥州市方面でした。後藤新平も斎藤實も戦後生まれの私には昔語りのような人でした。日本史で習っても忘れていました。ガイドさんは、東京でバス旅行に行った際に「この道路は岩手出身の後藤新平が作った道路です。」と案内するということでした。東京の近代都市化を図った初代東京市長が後藤新平です。「大風呂敷」と言われたこともあったそうです。名前だけは聞いたことがあったので、誇らしく思っていました。NHKラジオで盛んに放送していましたが、昨年の春で開局100年を迎えたそうです。今の放送教育の基礎を築いたのも後藤新平の業績ということを学芸員の方から伺い、改めて驚かされました。また、後藤新平には、全国各地に向き自治の精神を広めようとした自治三訣と称される言葉が

- 人のお世話にならぬよう
- 人のお世話をするよう
- そしてむくいを求めぬよう

と有るそうです。私も心に残しておきたい言葉です。

秋のバス研修旅行に参加して

四日町一丁目区 松田悦子

次は孤高の政治家、斎藤實記念館です。二・二六事件で凶弾に倒れて79歳決して偉い人間でも何でもないんだ。ただ何事も一生懸命努力してやってきたつもりだ。そうしているうちにいつか世間からドエライ椅子に押し上げられてしまった。」と語っていたそうです。私たちはとにかく人様に少しでもほめられるとうぬぼれたりしてしまいますが、お二人の言葉をいつも心にとどめておきたいと思います。斎藤記念館には、春子夫人がいつもここから庭を眺めていたというお部屋が有り、庭の木を見て、私も少しはやさしい気持ちになりました。

次はお待ちかねの江刺藤原の郷での昼食でした。奥州地方の食材をふんだんに使ったお膳でした。おひつのご飯は、金札米でしょうか。ハットウにひつつみ鍋、キムチ鍋、唐揚げ。おいしかったです。

腹ごしらえの後は、それぞれで江刺藤原の郷を散策しました。いつもはドラマのロケ地を廻っていましたので、今回は反対廻りをして山の方を歩いてきました。道端の萩は終わっていました。もう少し寒くなったら桜の葉が色づき美しくなるでしょうなどと話しながら小高い丘から藤原の郷を下に眺めてきました。

その後、曹洞宗の本山の日本一の茅葺き屋根の正法寺を拝観してきました。説明して下さった修行僧の方の声が小さくて聞き取れない部分もありました

が、何年か修行したら立派な和尚様になって、全国のどこかの寺で住職になることと思いましたが。正法寺の廊下の隅に蓋のない釜がありました。七不思議の一つの「ぶんぶく茶釜」のお話の元になった茶釜です。火事になった時、茶釜の蓋が群馬県のお寺に飛んでいったとか。この他にも正法寺の七不思議をゆっくりと聞きたいと思いました。また、吉永小百合が撮影にいらした時に顔を出した窓があり、皆様がこの窓から景色を覗いていました。

帰り際の本堂の広間で、私はお焼香をいただいたて来ました。コーヒーとサブレはサービスでおいであり、一時休憩をした後、笑顔で戻りました。

来年もみんなで参加し、人の輪が広がるコミュニティ活動になることを願っています。

◆編集後記

今年度も予定どおり年三回の「こぶし」を皆様にお届けすることができました。原稿をお寄せ下さった方々に厚く感謝申し上げます。

今年度は午年。勢いやエネルギーが高まり、飛躍のチャンスになる年だとか。皆様の挑戦によい結果が出ますように祈念しております。

(編集長 佐々木重紀子)



吉永小百合さんも見た正法寺の窓からの風景